

結界のある風景

この建築は相反する二つの風景の「結び方」の提案である

対象地は二つの世界が交わる場所に位置する

敷地の南は幹線道路が通り、多くの車や人が慌ただしく行き交う
敷地の北には、整備された遊歩道が長く長く続いている

対象的な二つの世界の狭間で、県道からの視線を抜き 遊歩道の静寂を守る

外海と内海をわける防波堤が重要なように、この土地もまた都市の中で重要な場所である

わたしたちはそこに二つの風景を結ぶ「空間化された結界」をつくった

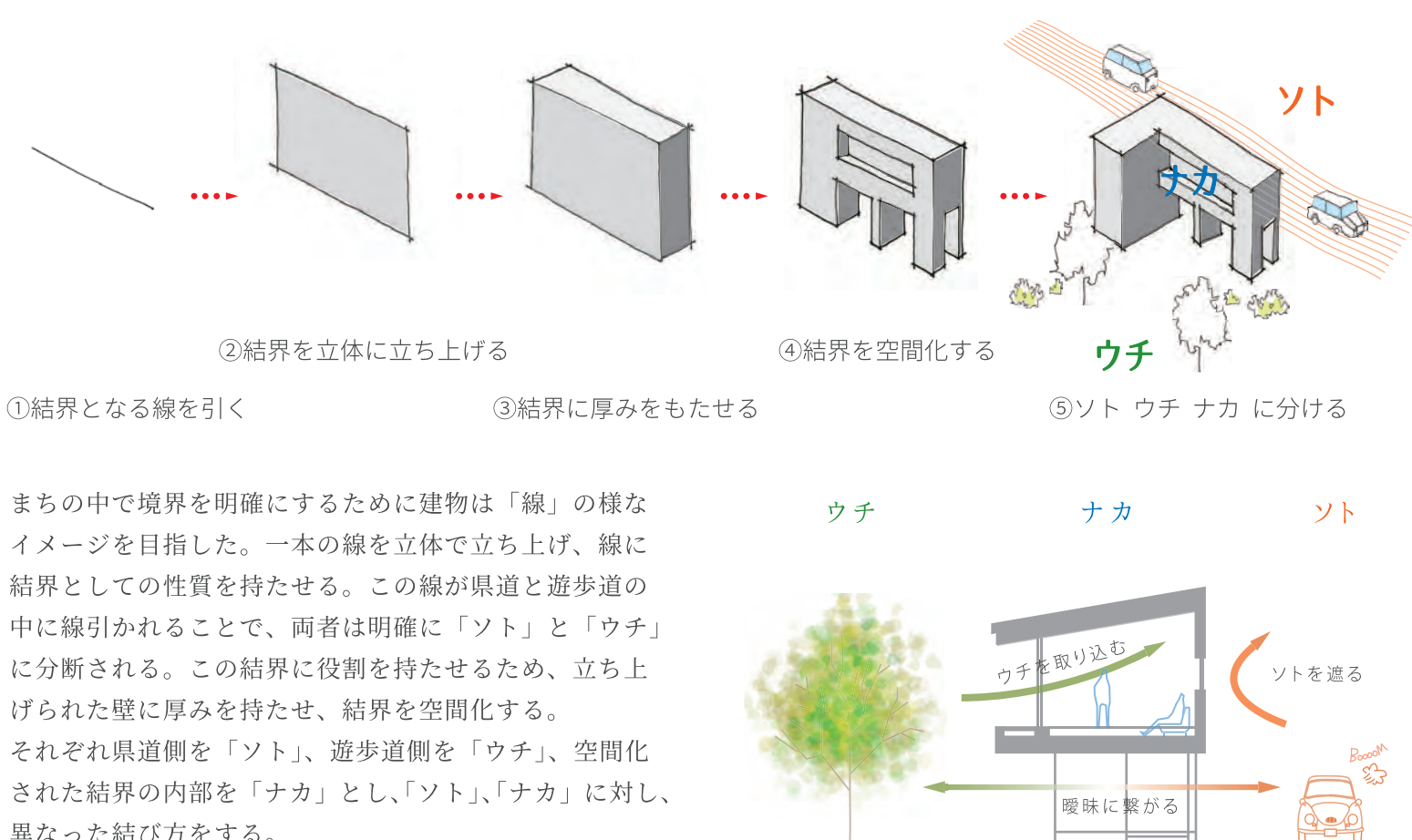


site 遊歩道と幹線道路に挟まれる土地

敷地の南に位置する道路は市内の中でも交通量の多い道路である。東には大規模な公園があり、西には駅がある。車、歩行者、自転車が多く行き交う市内の主要道である。敷地の北には全長が 1.2km 程の遊歩道が整備されている。樺の大木をはじめ、数多くの樹木が植えられ、近隣の住人にとって大切な憩いの場となっている。風景同士を透過しすぎず遮断しすぎず、上手く結びつけることで街の景観を活かす。



diagram ソト と ウチ と ナカ



scene 1 ソトからみる風景

■壁と抜け
大きなスケールで見るとこの建築は大きな壁のような印象を与える。形状はマッシュカット、シンプルに構成することで、ソトとウチを明確に分断する印象を与える。
アイレベルでは一階のボリュームを島のように配置することで視線の抜けをつくる。隙間から見える景色は、一つ一つが窓のように遊歩道の緑をとらえ、先の世界を想像させる。



scene 2 ウチから見る風景



■淀みをつくる
ウチ（遊歩道）に面してはソト（県道）の早い流れを緩和するように、建物の形をL字で置き、敷地の中に淀みとなる部分をつくった。また敷地と遊歩道の間には、木調の縦格子の塀を設け、強すぎない結界をつくる。
圧迫感を与えないよう、木材や石目調の素材を使い、ボリュームに変化を与えることで、ソト（県道側）とは全く違ったファサードを形成する。

scene 3 ナカからみる風景



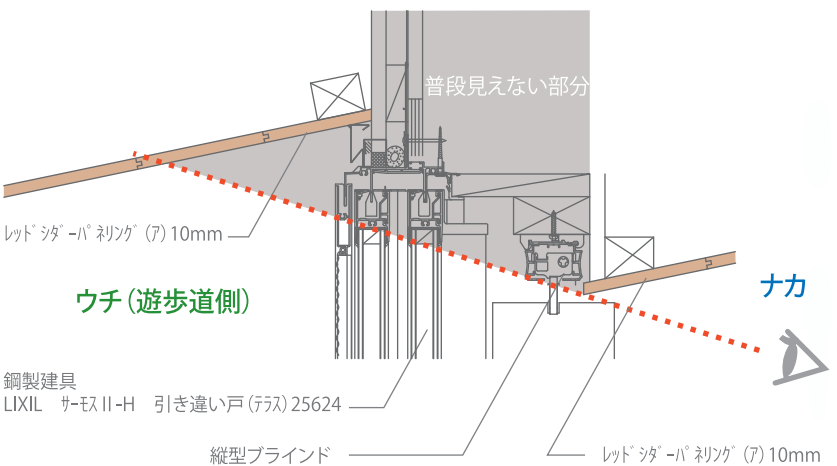
■夏の暑さを遮る
LDK は北側に大きな窓を設け、常時安定した採光を確保する。南側の窓は大きさを制限した上で、それぞれの窓に木製ブラインを付け、南面からの太陽光の入射を限定的なものとしている。



■結ばれるもの 界となるもの
結界の「ナカ」は静かさと忙しなさの間にある。生活の主空間となる 2 階部分は、静かで緑豊かな「ウチ」の空間をふんだんに取り込む。1 階部分はまちを行き交う人に結界としての役割を与えながらも、両者をを曖昧に結びつける。ときには「ウチ」や「ソト」を呼び込み、あるときは界（サカイ）をつくる。



■ウチを取り込む工夫
ウチ（遊歩道側）の軒天井と「ナカ」の天井は同素材としながらも、あえてしっかりとした段差を設け、その中に窓と縦型ブラインドを入れ込んだ。縦型ブラインドも窓枠より一段下げて取付けるで、普段見る遊歩道の景色から余分な線を消し去り、ウチ（遊歩道）と「ナカ」をよりすっきりとつなげる。ボーダーレスでつながるレッドシダーの天井材は遊歩道の緑を掴み取り、生活空間まで引きずり込む。



■ゆとりある動線計画
生活の拠点が 2 階となるため、玄関から階段、2 階へと続く動線はゆとりのあるものとしている。玄関ホールは開口を広く取り、家族全員での出入りにも窮屈することはない。階段は巾を 3 尺 4 寸とし、蹴上も 187mm と登りやすい高さに設定した。
この家に住まう人の 10 年後 20 年後を見通したユニバーサルデザインを目指している。



■可変する和室
合計 7 枚の襖戸が和室を様々な形態に変化させる。時間や使い方といった短いスパンで変わり、また家族の成長といった長いスパンでも変化する。
襖戸の上には透明のアクリルを設け、仕切られたとしても木調の天井が空間を広く感じさせる。

